

令和6年度 協働のまちづくりチャレンジ事業申請書

※太枠の中をご記入ください。

申請部門	一般部門
※プルダウンから選んでください	

【1】事前相談について

(1) 市民活動サポートセンターコーディネーターへの事前相談

コーディネーター名	中田コーディネーター
事前相談日時	4月18日（木）13:00～14:00
申請可能と言わされた日時	4月18日（木）14:00

※複数回相談した場合、全てご記入ください

(2) 協働を希望する課への事前相談 ※学生・高校生部門は不要です

協働希望課名	障害福祉課
事前相談日時	3月27日（水）10:00～10:30、4月18日（木）14:00～14:30
申請可能と言わされた日時	4月18日（木）14:30

※複数回相談した場合、全てご記入ください

【2】応募要件について

該当する部門の応募要件の□内に、○を記載してください。（プルダウンになっています）

該当の部門	要件内容	
全部門共通	5名以上で構成し、主に金沢市内で活動し、今後も活動を予定している団体である。	<input type="radio"/>
全部門共通	営利活動、宗教・政治活動を目的としていない。	<input type="radio"/>
全部門共通	申請事業について、国、地方公共団体又はこれらに準ずる団体から助成を受けていない。	<input type="radio"/>
全部門共通	既に地域や団体が実施している事業そのものではない。	<input type="radio"/>
一般部門、団体連携部門	運営に関する規約等があり、1年以上の活動実績を持っている。	<input type="radio"/>
スタート、一般、団体連携	翌年3月31日までに事業を完了できる。	<input type="radio"/>
学生・高校生部門	翌年2月28日までに事業を完了できる。	<input type="radio"/>
スタート部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去に採択された団体ではない。	<input type="radio"/>
スタート部門	法人格を取得しておらず、かつ設立から3年以内の団体である。	<input type="radio"/>
一般部門、団体連携部門	昨年度採用されていない事業である。	<input type="radio"/>
一般部門、団体連携部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去2回以上採択された団体ではない。	<input type="radio"/>

【3】申請者について

団体の名称	重症児・医療的ケア児相談事業 さくらんぼスマイル
団体名称のフリガナ	ジュウショウジ・イリョウテキケアジソウダンジギョウ サクランボスマイル
代表者	高村 理恵
役職名	代表
氏名（フリガナ）	高村 理恵
団体の所在地	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
構成員	計15名
(内訳)	(1) 市内関係者 12名 (2) その他 3名
設立年月日	2020年 12月 1日 (設立 4年目)
設立の目的	代表は医療的ケアを必要とする重症心身障害児(故)の母親で、一人で悩みを抱え込み心身を壊した経験を踏まえ、障がい児を育てる親に、辛い時につらいと言え、相談ができる場所を提供するために設立した。重度の障がい児・医療的ケア児等の子育てに孤立する傾向にある親同士が気軽に不安や悩み、支援の情報を共有でき、必要な支援につながり、互いの気持ちをわかり合う居場所づくりに努めている。
活動概要と団体のPR	毎月1回、障がい児を育てる先輩ママでもあるメンバー、保健師等の支援者(オブザーバーとして)も参加し、グループ相談会を開催。会場は児童デイサービスはじめ、見学会も兼ねるなどして無償での会場提供をお願いし、さまざまな場所で開催中。障害福祉サービス、生活(食事、入浴等)、ケアや手術、きょうだいや成人後など様々なテーマで悩み相談や情報交換を行っている。必要に応じて行政のサービスや民間のサービス施設などの支援に繋いでいく。 各親の会、県の医療的ケア児支援センターとも連携し、防災や食事支援に関する勉強会やイベントもコラボ開催している。 「障がいの有無にかかわらず、すべての親が楽しく子育てができるやさしい社会」を金沢から作っていこうとさまざまな活動をしている。
HP,SNSのURL	インスタグラム : sakuranbo_smile
担当者連絡先	同上
役職名	
氏名（フリガナ）	
住所	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
携帯電話番号	

※団体連携部門の場合、当該「【3】申請者」は連携先団体の分も必要であるため、シートをコピーし、シート名を「団体連携先」として記載願います。その場合、記載が必要な部分は「【3】申請者」部分のみです。

【4】企画内容について

提案事業・テーマ	(2) 暮らしづくり
企画のタイトル	みんなで安心をひろげる相談事業～すべての親がしあわせな子育てのできる社会へ～
事業効果	※特に事業の対象者が具体的にどうなるかを以下に記入してください。
現状の地域課題	<p>R3年9月医療的ケア児支援法が成立・施行され、R4年4月から医療的ケア児の相談一括窓口であるいしかわ医療的ケア児支援センターが開設した。また、金沢市の障害者ノーマライゼーションプラン金沢2021では「豊かに育つ」を重点施策に掲げ、「障がいのある児童の支援の充実を図る」としている。メディアでも医療的ケア児という単語を聞くことが増え、金沢市でも今年3月に医療的ケア児支援ポータルサイト「いっしょに育とう♪」が障害福祉課により開設、今年度より医療的ケア児の保育所受入れが始まるなど、当団体の活動に連動するよう行政の動きの活発化も見られる。</p> <p>また、今年初めの能登半島地震から、児と家族の防災に対する意識の高まりと同時に不安も多く聞かれるが、医療的ケア児・重症心身障害のある子どもを持つ親が積極的に行政に協力しながら、障がい児に対する周知を広め、地域での周囲との普段からの関係性を深めていくことが、緊急時の支援・防災にもつながっていくと考える。</p> <p>支援者や県の支援センター等との連携を深め、児とその家族への切れ目のない支援の輪をさらに広げることが重要であると考えている。</p>
事業の実施により期待される効果	<p>(2) 暮らしづくりからの視点</p> <p>親へ、必要な情報をいち早く届け、支援・サービスにつなげられる。</p> <p>行政へ、親のリアルな声を届けることで、よりニーズに合った支援を提供できる。</p> <p>当事者でもある活動メンバーが親の心に寄り添い、行政支援との双方のアプローチにより、よりよい子育て環境が整い、障がいの有無にかかわらずすべての親がしあわせな子育てのできる共生社会が、金沢から作られていく。</p> <p>防災面においても、当事者と行政・支援者がともに意識を高め備えることにより、「自助」「共助」「公助」そして「互助」がととのった安心して暮らせるまちづくりを行う。</p> <p>(3) 人づくりからの視点</p> <p>子育て中の親が、後輩の悩みを聞くことで「自分の子育て経験が誰かの役に立つ喜びや充実感」を味わい、さらなる活動メンバーへの参加を促進し「助けられた人がさらに次の誰かを助ける」好循環を生み出し、子育て環境の改善、子育ての喜びを広める。障がい児の子育てで起きやすい孤立や、孤独感の解消、虐待の防止につながる。</p> <p>市の担当課、保健師、県の支援センター・病院、施設やデイサービス、訪問診療、訪問看護・介護など、さまざまな機関と障がい児の家族とをつなぎ、情報を共有し孤立させないようにみんなで見守り支えていく。</p> <p>また複数の親の会との連携を行い、初期～成人期に至るまで、家族への切れ目のない支援を拡充し、孤立や虐待。育児拒否の防止につなげる。</p>
その他	福祉健康センター総務課は地震対応でご多忙のため、ご負担とならないよう協働課としての依頼はせず、「相談会へのオブザーバー参加」「赤ちゃん訪問等でのハンドブック配布の協力」を窓口担当の方に直接依頼する形で、課よりご承諾をいただいています。

事業の概要	
具体的な実施内容 ※「誰が」「何を」「いつ」「どのくらい」「どこで」「どのように」実施するのかを具体的に記入してください。	<p>① 主軸：毎月のグループ相談会（対面・zoom）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩ママである活動メンバー（ピアスタッフ）が後輩ママの悩みを聞き、自身の経験や情報伝え、行政や支援センター等の関係機関、福祉サービスなど必要な支援へつなぎ、継続的に支えていく。 ・障がい児や家族と接する機会の多い各福祉健康センターの保健師の方にも同席いただき、親のリアルな思いや現状課題を共有し、双方の交流をはかる。 ・昨年度は会場も曜日も固定していたが、参加者も固定しがちだったため、今年度はさまざまな会場で、プラスアルファの要素を足し地域の色んな団体とコラボしながら、土日などにも開催し、参加のハードルが高くならないよう「行ってみたい相談会」を目指して、新規の参加者を増やしていく。デイサービスなどの施設に無償での会場提供をお願いし、かわりに当事者家族への情報提供を行い、互いによい関係を作る。 <p>◎今年度企画</p> <p>4月3日(水)：デイサービス「キッズFit森本」見学会 & 臨床美術士によるアート体験会（実施済み）</p> <p>5月12日(日)：「石川トヨペットカローラ モビリティパーク金沢」非常用電源についての防災勉強会（実施済み）</p> <p>7月上旬：石川療育センター見学 & ショートステイについて説明会</p> <p>10月下旬：野々市市こども食堂「ちきそら」食事支援の必要な子向けの調理実習 & 試食会</p> <p>12月上旬：「はじめまして産後ケア」体と心のケアを学ぼう</p> <p>1～2月：「いしかわ医療的ケア児・障害児家族グループPareTTe」コラボzoomお話し会</p> <p>② 「医療的ケアやサポートが必要な子の子育てハンドブック」印刷配布、および周知イベントの実施</p> <p>（1）昨年度データ作成したハンドブックを印刷、必要なところへ配布。1000部印刷予定。</p> <p>☆配布先：障害福祉課：窓口、金沢市医療的ケア児等支援コーディネーター、ポータルサイト、福祉健康センター総務課（保健師の赤ちゃん訪問時）、いしかわ医療的ケア児支援センターこのこの（医王病院）、金沢福祉用具情報プラザ、金沢教育プラザ、石川療育センター、金沢こども医療福祉センター、各親の会（いしかわ医療的ケア児・障害児家族グループPareTTe、石川県肢体不自由児協会、石川県重症心身障害児（者）を守る会）、訪問看護ステーション・デイサービスなどの事業所、病院小児科</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>☆このうち「病院小児科」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの目指す「わが子のしうがいがわかつてすぐ」の時期の親への支援、もっとも配布したい場所にまだ入り込めていない。 <p>→ 障害福祉課と協力し、「金沢市医療的ケア児等支援コーディネーター」の病院派遣を目指す。</p> <p>→ 県の「医療的ケア児支援センター」、「難病支援センター」と連携（交渉済み）</p> <p>（2）ハンドブック周知イベント（交流会）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月下旬予定。20～30名程度参加見込み。→ハンドブック配布拡大、市のコーディネーターの周知も目的 <p>→ 同会場にて医療的ケア児の写真展（主催：県支援センターこのこの）も同時開催。たくさんの人の目に触れるよう会場は「ゴーカレースタジアム会議室」「県立図書館」「金沢クルーズターミナル」のいずれかで検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と支援者が一緒にハンドブックをもとに、支援についてそれぞれの思いについて話せるような会を想定。障害福祉課の協力により、「金沢市医療的ケア児支援コーディネーター」にも数人参加していただく。

具体的な実施内容

※「誰が」「何を」「いつ」「どのくらい」「どこで」「どのように」実施するのかを具体的に記入してください。

③防災についての勉強会および防災キャンプの実施

(防災に関しては市のみでなく県も含まれるため、事案によっては色々な団体に協力して進めたい)

(1) 「非常時の電源について学ぼう@トヨペットカローラモビリティパーク金沢」(実施済)

日時：2024年5月12日(日)10:30～12:00

会場：トヨペットカローラモビリティパーク金沢（金沢市元町）

共催：いしかわ医療的ケア児・障がい児家族グループPareTTe

医療的ケア児にとって、医療機器の電源は必須。能登半島地震の際、停電や車中泊で予想外に早くバッテリーが切れた、などの声を聞き、非常に使えるポータブル電源や車からの給電や、医療機器の消費電力についてなど、実演を交えみんなで勉強する。

(2) 福祉避難所、個別避難計画について学ぶ勉強会（座談会形式で、年3回～開催を予定）

今回の地震で、福祉避難所開設の困難さが浮き彫りになったが、支援の必要な子たちと家族はどう避難したらよいのか？「個別避難計画」のベースとなるものを「いしかわ医療的ケア児支援センター」と共同で作成していくとともに、「要支援者の把握」についても、行政に情報提供・協力する形でともに考えていきたい。

協力：いしかわ医療的ケア児支援センターこのこの、PareTTe、石川県肢体不自由児協会、石川県重症心身障害児(者)を守る会、その他参加想定：金沢市障害福祉課、石川県障害保健福祉課、ほか（第1回は4/24(水)14:00～このこのにて実施済み）

(3) 防災キャンプの実施

日時：9月下旬（体温調節が難しい子が多いため、デイキャンプを想定）

会場：工房シティ（あおぞら福祉会・金沢市粟崎、交渉済み）、またはいしかわ特支体育馆（交渉中）

協力：いしかわ医療的ケア児支援センターこのこの、PareTTe、石川県肢体不自由児協会、石川県重症心身障害児(者)を守る会、石川県立看護大学防災サークルふたば

アドバイザー：笠井健氏（東日本大震災で医療機関などの災害支援をした経験から、医療的ケア児の親子防災教室など地域の社会貢献活動に取り組み、能登半島地震でも発災直後から能登で支援活動を行う。）

内容：車中泊を想定し、車からの給電やポータブル電源を使ってみて医療機器がどのくらいもつかを試したり、車内やテントでオムツ替えや経管栄養注入、使用後の洗浄などを実際に体験し、どんな課題があるか、何を備えるべきかをみんなで考える。

→石川県立看護大学の「防災ボランティア・サークルふたば」とコラボし、嚥下の難しい人向けの非常食メニューを考え、作る・食べる体験なども一緒にしていただく。

→各避難所にストックされている非常食や炊き出しの料理を食べられない人たちがいることを、将来の看護師である学生さんや、有事に避難所を運営する行政の方、世の中にも知ってもらいたい。

④団体のホームページ制作

現在インスタグラムによる情報発信を行っているが、団体の概要や活動を紹介するホームページを作成する。金沢市障害福祉課の「医療的ケア児支援ポータルサイト」とも連携する。医療的ケア児子育てハンドブックのデータも公開。

制作協力：株式会社メントル

企画内容にかかる注意事項

※単発的なイベントで終わるものではなく、通年の活動や今後に繋がる継続性を考慮した事業を提案してください。

※実施方法（予定日時・予定場所・実施形態・予定講師・参加見込数）など出来るだけ具体的に記載ください。

別途資料を添付する場合は、A4サイズでお願いします。

※既存の事業で応募する場合、工夫や改善した点を明確にしてください。

【5】事業収支予算書

委託費

300,000 円

収入の部

(単位：円)

科目	金額	内訳など
委託料（金沢市）	300,000	
参加費	8,000	相談会（こども食堂ちきそら）@500円×親子6組、防災キャンプ@500円×親子10組
計【A】	308000	

支出の部

(単位：円)

科目	金額	内訳など
ハンドブック印刷費	120,000	初版1,000部
食材費	50,000	飲料（ミネラルウォーター等）・大人弁当（参加費）・調理食材・ゼリー粥・トロミ剤等（9月防災キャンプ30,000円）、調理食材・トロミ剤等（10月こども食堂20,000円）
イベント雑費	25,000	紙食器類・カセットボンベ・ラップなど消耗品（9月防災キャンプ15,000円）、紙食器類・キッチンペーパー等消耗品（10月こども食堂10,000円）
会場使用料	8,260	11月ハンドブック周知イベント
ホームページ制作費	66000	ドメイン料3,000円/年、ウェブサーバー料8,000円/年、作成委託費55,000円
チラシ印刷費	28,000	案内チラシ（相談会、防災キャンプ、こども食堂）、プリントインク
雑費	10740	文具、紙、消耗品等
計【B】	308000	

【A】収入合計と【B】支出合計は一致（同額）させてください。